



東北大学



2015年4月17日

報道機関各位

東北大学大学院医学系研究科
東北大学災害科学国際研究所

大震災後の福島県被災地域におけるめまい患者の増加 震災前後の神経耳科的疾患患者の変化

【研究概要】

東北大学大学院医学系研究科の日高 浩史（ひだか ひろし）准教授、長谷川 純（はせがわ じゅん）医師らのグループは、同災害科学国際研究所および東北メディカル・メガバンク機構の栗山 進一（くりやま しんいち）教授らと共同で、福島県沿岸地域におけるめまいをはじめとする神経耳科疾患^{注1}が、東日本大震災の後約2年にわたり増加していることを明らかにしました。

本研究は、津波と原発事故による被災地の第一線の公立相馬病院（福島原発から44kmに位置）において、大震災の神経耳科疾患への影響を疫学的観点から初めて明らかにした重要な報告です。本研究によって、被災地の長期的ケアの重要性を提議し、災害医療の発展に貢献することが期待されます。

本研究結果は、2015年4月7日のPLOS ONE誌（電子版）に掲載されました。

【研究内容】

2011年3月11日の東日本大地震の前後、公立相馬病院は福島県沿岸地域近隣で耳鼻咽喉科医が常勤している唯一の病院であったため、めまいをはじめとする神経耳科疾患の患者が集中する病院でした（図1）。公立相馬病院における患者数の総数は、震災前後（震災前1年間と震災後2年間）で変化がありませんでしたが、耳鼻咽喉科の疾患別で患者の種類を調べたところ、メニエール病^{注2}をはじめとするめまい疾患の患者数が、震災後に有意に増加していました（図2）。一方、鼻出血やアレルギー性鼻炎などの他の疾患の患者数は明らかな増減はありませんでした。さらに、めまい患者の4.8%にうつや他の精神疾患の合併を認めました。これらの結果から、大震災の被災地域においては長期的な医学的サ

ポートが必要な可能性があると考えられました。

なお、本研究の一部は文部科学省科学研究費によってサポートされました。

【用語説明】

注1. 神経耳科疾患：主に聴覚・平衡覚系の神経失調によって起こる疾患で、めまい、平衡障害、各種の感音難聴、耳鳴、顔面神経麻痺などを含む。

注2. メニエール病：4つの症状を同時に示し、症状が繰り返して起こる内耳の疾患。症状には、強い回転性のめまい、難聴、耳鳴り、耳閉感が含まれる。

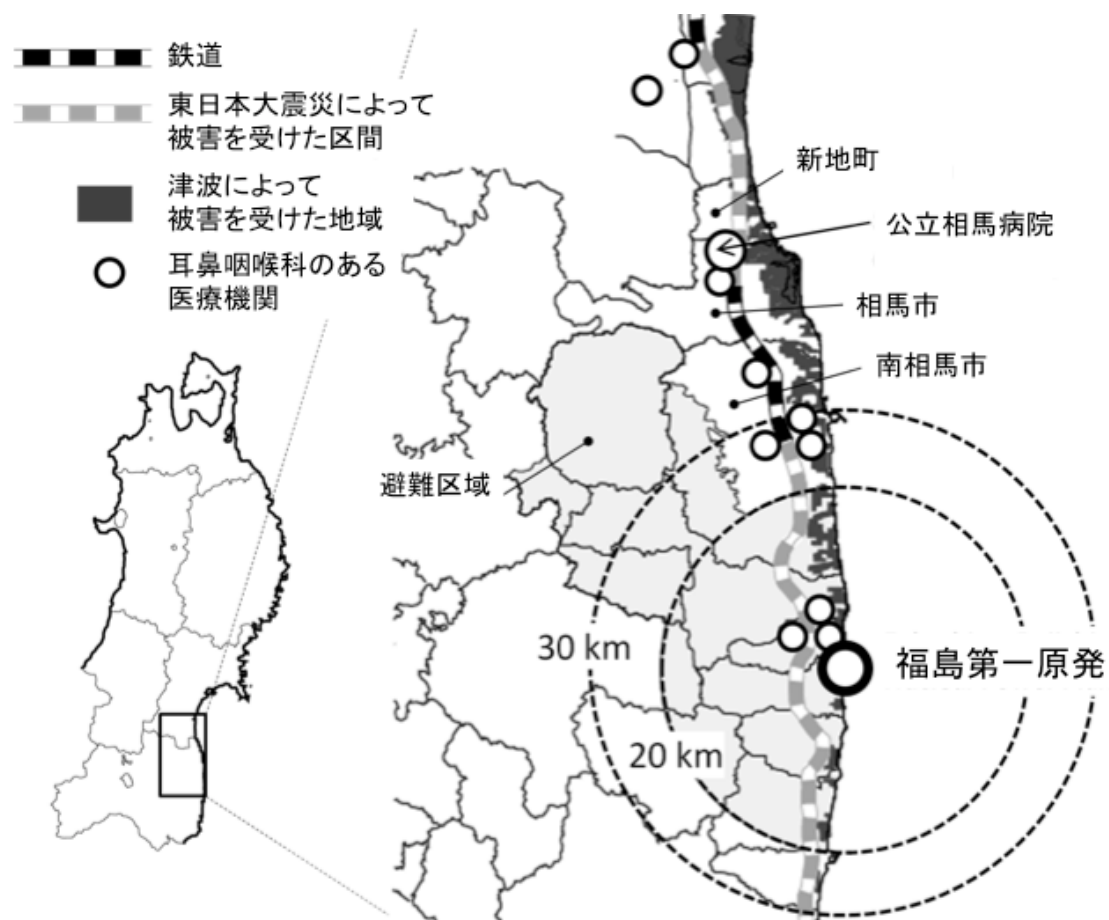


図1.公立相馬病院とその周辺図

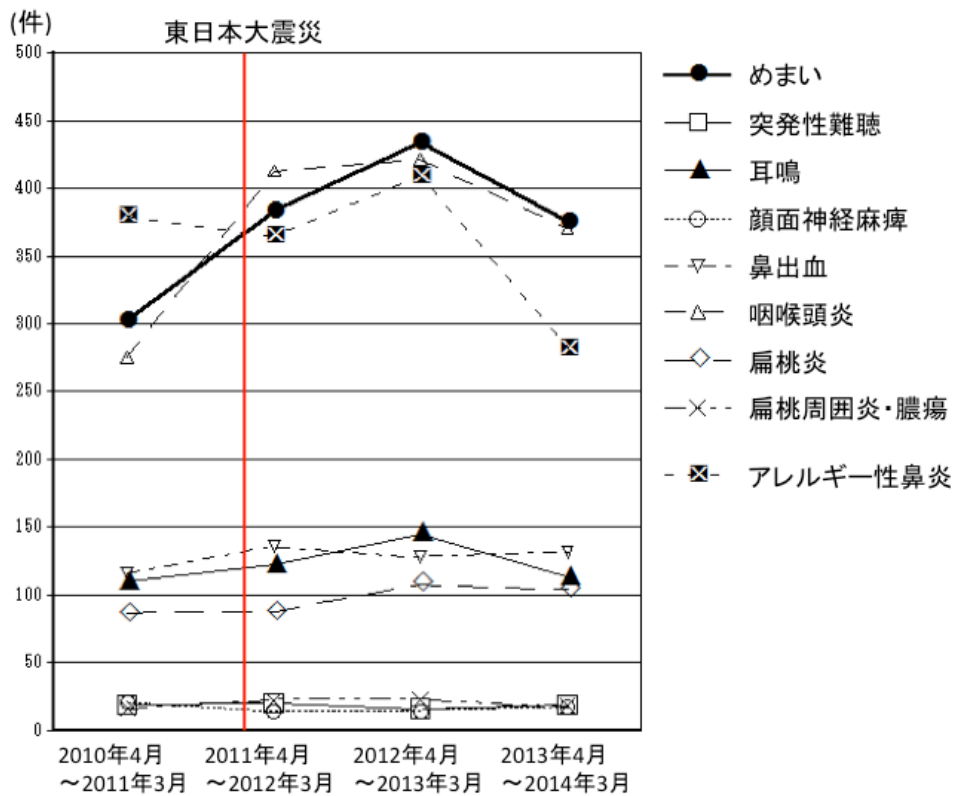


図2. 公立相馬病院耳鼻咽喉科における耳鼻咽喉科疾患の震災前後の推移。メニエール病を始めとするめまい疾患が震災後、2年にわたり、急激に増加している。

メニエール病の4症状



図3. メニエール病の4つの症状

【論文題目】

Change in and Long-Term Investigation of Neuro-Otologic Disorders in Disaster-Stricken Fukushima Prefecture: Retrospective Cohort Study before and after the Great East Japan Earthquake.

掲載雑誌名: PLOS ONE (2015) 10(4):e0122631.

日本語訳「福島県被災地域における神経耳科疾患患者の長期的観察：東日本大震災前後の後方視的コホート研究」

【お問い合わせ先】

東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学

講座分野 耳鼻咽喉・頭頸部外科分野

准教授 日高 浩史 (ひだか ひろし)

電話番号：022-717-7304

Eメール：ZAY00015@nifty.com

【報道担当】

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

講師 稲田 仁 (いなだ ひとし)

電話番号：022-717-7891

ファックス：022-717-8187

Eメール：hinada@m.tohoku.ac.jp